



ねこだけ通信

南郷谷リハビリテーションクリニック便り

令和6年 9月発行 第19号

コンビニ配送車に学ぶ

早朝、老犬2匹を連れて散歩に出るのを日課にしている。自宅を出て坂を下り、ミニマートのハウスで積み取り作業をする青年たちと朝の挨拶を交わし、稲刈り間近かの田んぼを眺めながら歩く。

坂を上り切りコンビニのある交差点に差し掛かると、いつも定時に配送車が到着する。大量の弁当、おにぎり、サンドイッチ類などが運び込まれる。これから工事現場に向かう人たちが朝飯、お昼の弁当、ペットボトルを買って求める時間に合わせて、棚一杯に商品を並べるためだ。見るともなしに配送車の動きを眺めているとある決まり事があることに気付いた。

- ① 配送車は駐車場に入る段階で「ハザードランプ」を点灯させる。
- ② コンビニ店舗の角付近にバックで駐車する。決して出入り口付近には駐めない。
- ③ 降りてきたドライバーは先ず運転席下のタイヤに三角形の車止めを咬ませる。
- ④ 車の周囲を一周して障害物が無い事を目視で確認する。
- ⑤ 最後に助手席側の角に赤い三角コーンを立てて、周囲の車に注意を促す。



成る程、配送車にも事故防止のためのマニュアルが存在しているのだな。マニュアルに沿った手順で実直に作業をするドライバーに感心する。まさか犬連れの初老の紳士が毎朝その様子を観察しているとは知らないだろう。

一つの重大事故が起った時、その陰には29件の軽微な事故があり、更にその下地として、危うく事故になりそうだった事例(ヒヤリハット)が300件存在しているという。いわゆる「ハイน์リッヒの法則」である。患者さんの薬のアレルギー歴、薬剤併用禁忌、検査結果の異常値の見過ごし、リハビリ中の転倒事故など、常に医療現場は重大事故発生の可能性を孕んでいる。一つひとつの確認作業を慌てず確実に、事故防止に努めた

作文のススメ

毎月「ねこだけ通信」に拙文を綴っています。原稿用紙にして5枚程度の文字数です。思い起こすと私は小学校の頃から作文や読書感想文を書くのが好きでした。担任の先生に読んでもらって褒められて嬉しかった記憶がこの歳になっても残っています。

皆さんも作文を書いてみませんか？人に読んでもらう文章を書くのはかなり頭を使います。読みやすく、すっと理解できる文章を書くのは難しい。先ず自分の頭の中で、何を伝えたいのか(主題)を決め、それをどのように伝えるか(表現と構成)を考え、必要があります。

作文発表の場として熊日新聞の「読者ひろば」への投稿をお勧めします。「ひろば」には読者から寄せられた意見・主張や身近な出来事が綴られています。

概ね400〜600字の字数制限があり、作文の練習には打って付けでしょう。掲載されるか否かは「文章の出来」だけではなく、話題性のあるテーマだったり季節の便り的なものが考慮されるようです。運よく掲載されれば、恐らく数千人の読者の眼に留まりますし、後日熊日から「薄謝」(千五百円分の図書カード)が届きますよ。

院長 拝

「HPV」予防 男子も接種を

渡邊淳永 65 内科医

(南阿蘇村)

高森町でこのほど小学生6年生〜高校1年生の「男子」を対象としたヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン接種が始まった。HPV

がんに罹患し約3千人が命を落としている。HPV感染を防ぐために性体験をする前にワクチンを接種することが有効だ。現在接種対象は中高生「女子」となっているが、感染経路を考えれば、本来男女両方が接種すべきワクチンである。高森町のように中高生男子に対するワクチン助成を行っている自治体はまだ限られている。全国的に見ても高森町の助成制度は先進的取り組みであり賞賛されるべきものといえる。厚労省による男性のHPVワクチン公的接種の早急な導入が望まれる。

は性行為により感染し女性の子宮頸がんを発症させるほか、男性でも中咽頭がんや肛門がんの原因となる。日本では毎年1万人以上の女性が子宮頸



看護師に求められる 向上心

看護部 清水 厚子

皆さんエンド・オブ・ライフ・ケアという言葉聞いたことあるでしょうか？

1990年代から米国で使われるようになった、比較的新しい言葉ですが、緩和ケア、ホスピスケアと同じ意味合いといえるでしょうか。

9月21日～22日の2日間に渡り国立病院機構熊本医療センターにて開催された、「すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア」研修に参加してきました。
エンド・オブ・ライフ・ケアとは「病いや老いなどにより、人が人生を終える時期に必要とされるケア」の事を指し、疾患を限定していいことも特徴です。その人のライフ(生活・人生)に焦点を当て、QOLを最期まで最大限に保ち、その人にとってのよい死を迎えられるようにすることを目標とします。

今回の研修では10の学習単位から構成されたカリキュラムに沿って、これまで自分が経験した場面と合わせながら、学びを深めてきました。

ELNEC-コアカリキュラム看護師教育プログラムの構成	
モジュール1	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護
モジュール2	痛みのマネジメント
モジュール3	症状マネジメント
モジュール4	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的課題
モジュール5	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける文化への配慮
モジュール6	コミュニケーション —患者の意思決定を支えるために—
モジュール7	喪失・悲嘆・死別
モジュール8	臨死期のケア
モジュール9	高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア
モジュール10	質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアの達成

10の学習項目

どの項目も重要なことばかり。講師の先生の一言一言にあっていう間の2日間でした。

■実践的な学び

ロールプレイングの場面では実際に自分たちが設定された場面の役になりきります。

私は患者家族(夫)、妻が病気になる、余命は3か月だと医師より宣告を受ける。子供2人。人生これからというまだまだ若い世代のご家庭という設定。まさか妻が

これからの事を家族にどう伝えたいでしょうか？
妻にはどういいますか？
沈黙・・・さらに沈黙・・・

想像もしない言葉を聞き、家族が居なくなるといふ現実をどうとらえていいのかわからなくなりました。
看護師役が言葉少なにずっとそばにいてくれます。

私の言葉を待ち、むけられたまなざしに安らぎを感じ、心がときほぐれていくような感覚がありました。
医療的なケアはもちろんですが、時に、言葉ではない、その人のもつ温かなオーラに心が救われる瞬間もあるのかもしれない。



様々な病院からの看護のスペシャリストの方々

実際に病床経験されている看護師さんの参加も多く、より具体的で、実践的な意見が飛び交います。

■研修を終えて

理想のエンドオブライフケアの形は人によって様々です。なによりも大事な「本人の意思」その人が望むことを尊重するという徹底した姿勢が最も大切です。

医師をはじめとした医療や介護に関わる様々な職種との連携や、家族とのコミュニケーションは欠かせません。

2025年問題の課題である医療・介護のニーズの増大と人材不足の解決策として「病院完結型」から「地域完結型」の医療・介護体制を目指していくといわれています。
どのような場面でも誰かの役に立てるといふ、そんな看護師でありたいと再認識できた研修となりました。
学びはいいですね。皆様に是非。

インフルエンザ
新型コロナウイルス
ワクチン接種開始

インフルエンザ **新型コロナウイルス**

ワクチン **ワクチン**

接種 開始 **接種 開始**

しました! **しました!**

12月28日(土) **3月31日(土)**

まで **まで**

南郷谷リハビリテーションクリニック

